

建物名	(財) 淳風会 倉敷第一病院 (倉敷市老松町)
応募者	株式会社 創和設計 代表取締役 貴田 茂

建物外観



【UDに配慮したポイント】

倉敷市の市街地に建つ当病院は、40年以上続く歴史のある病院で、『質の高い診療と心地よい診療環境を提供する』を基本理念に運営されており、今回応募した北館の改築もこの基本理念に従い、UDの考え方を取り入れた設計とした。

①「使いやすさ」への配慮

- ・フラットな床、連続した手すり、半自動引き戸の出入口、4パターンのマルチトイレの整備などハード面での配慮を十分に行った。

②「心地よさ」への配慮

- ・『心地よい診療環境の提供』を具現化するため、病院らしくない心地よい空間づくりを目指した。

例えば、

- ・待合室は、ホテルのロビーを想像するような光や水の効果を取り入れた空間とした。
- ・長期入院が必要な病室のあるフロアーには住宅の台所や居間を思わせるコーナーを設けた。

③「分かりやすさ」への配慮

- ・フロアーごとのシンボルカラーの設定やサインへの英語併記など誰もが使いやすく、分かりやすい施設とする工夫を随所に行い、来院者が迷うことがないよう配慮した。

④その他

- ・当病院では、建物完成後も随時、来院者や職員など使用者へのアンケート結果を参考に、施設の計画や改善などが行われている。

1. 使いやすさ

① 出入口



患者や来訪者が、安全に利用できるように段差を解消した。

また、ポーチの車寄せから総合案内まで視覚障害者用の誘導表示を設置した。

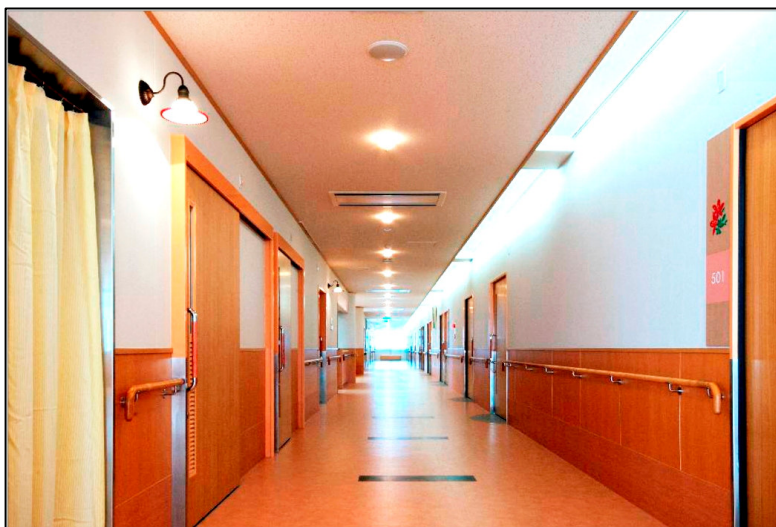
② 便所

3階の通所リハビリテーション室には、介護するのではなく自分でできないことを介助する観点から、いろいろな使い勝手を想定したパターンの違うトイレを設置した。
また、人感センサー付の照明を用い、消し忘れ防止と省エネに配慮した。



介助なしでも利用できるように自立タイプの手すりを設置

③ 通行スペース



廊下は、ストレッチャーや車いすのすれ違いが容易にできる十分な幅(W=2.7m)とし、連続して手すりを設けた。

④その他

総合案内や受付・投薬のカウンターには車いす専用のコーナーを設けるほか、安全のため足元のフットライトや手元の照明に配慮した。また、再来受付機に杖を置くフックを取り付けた。



再来受付機の
杖を置くフック



総合案内

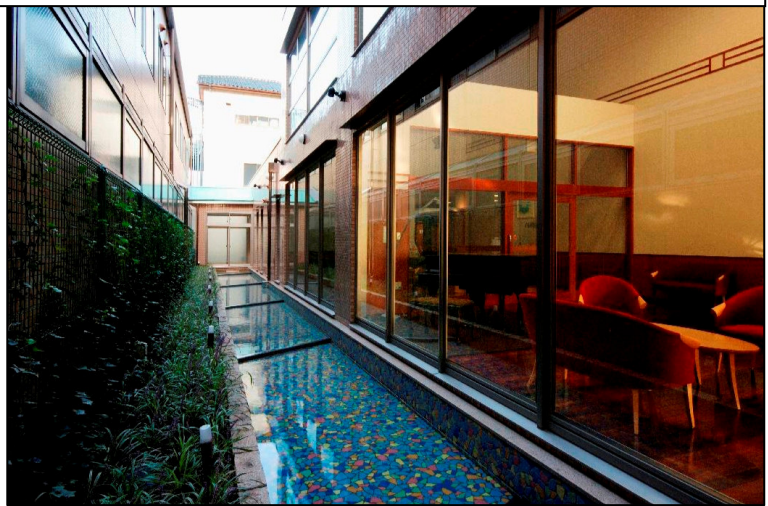
2. 心地よさ

待合空間を快適に過ごすため、吹き抜けのあるアトリウムと待合室側には、水の流れる光庭を配置した。

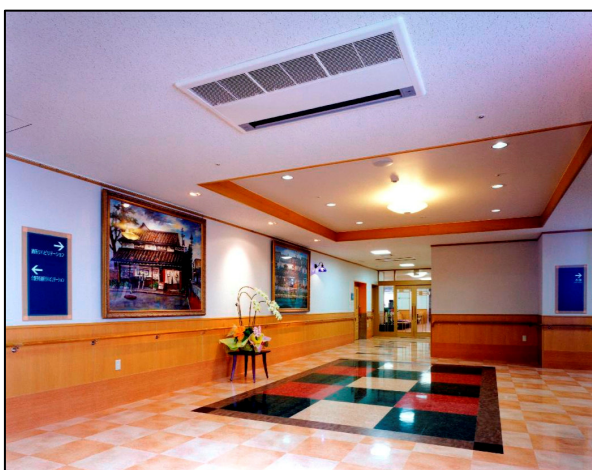
各階の待合いホールには彫刻や絵画を配し、やすらぎの空間とした。



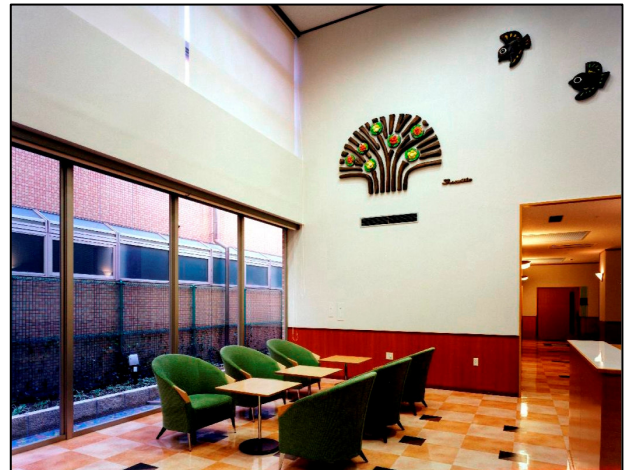
←
1階 吹抜



1階 光庭
→



3階 ホール



1階 待合室

3. 分かりやすさ

サインが建物のデザインの一部となるように設計段階から計画し、「わかりやすい誘導とすぐれたデザイン性」をテーマに計画した。

例えば、フロアごとにシンボルカラーを決め、機能性とうるおいのある空間を演出している。また、主要な部分のサインにはすべて英語表示を設け、外国人への配慮も行っている。



各階エレベータホール